

かぶ
株を守るきそ
基礎 ③かぶ
株を守る (中国の古い話)

昔、中国の宋(そう)という国に、一人の農民がいました。農民は、毎日、朝からばんまで、畑をたがやしていました。

その畑のすみには、木を切ったあとの切りかぶが、一つ残っていました。

ある日、一ぴきのうさが、林の中から勢いよく走ってきました。うさは、その切りかぶに頭をぶつけて、首のほねをおり、死んでしまいました。

農民は、思いがけず、ごちそうを手に入れることができました。

「こんなに楽にうさが手に入るなら、もう畑をたがやす必要はない。」

そう考えた農民は、くわを放り出して、毎日、切りかぶのそばにすわり、うさがまたぶつかってくるのを待ちました。

けれども、うさは二度と来ませんでした。そのうちに、畑はすっかりあれてしまい、農民は、国じゅうの笑いの者になってしまいました。

農民は、楽をしてもうけようとしたために、かえって大切なものを失ってしまったのです。

この話から、一度うまくいったことにこだわって、古いやり方を守り、進歩がないことを、「株(かぶ)を守る」というようになりました。

1 うさは、何に頭をぶつけましたか。



2 うさを手に入れた後、農民はどうしましたか。

ア 前よりも熱心に畑をたがやした。

イ 畑をたがやすのをやめて、うさを待った。

ウ うさを売りに行った。

3 農民の畑は、どうなりましたか。

ア 作物がたくさんとれた。

イ すっかりあれてしまった。

ウ うさがすみついた。

4 「株(かぶ)を守る」の意味に合うものに、○をつけましょう。

ア 一度うまくいったことにこだわり、進歩がないこと

イ 木を大切に育てること

ウ ものをなくさないように守ること